



新発田市米輸出促進協議会（新潟県新発田市）

農林水産課 課長 渡邊 誠一氏

連絡先：0254-33-3108、norinsui@city.shibata.lg.jp



資料 5



【米の輸出事業の概要】

- ・ H29年に台湾へ米25 t の輸出を皮切りにスタート
- ・ R2年7月に市と生産者、集出荷業者等で構成される輸出促進協議会を設立
- ・ 輸出する米は、おいしいお米コンテスト入賞者の米から選定

【米の輸出に取り組んだきっかけ】

- ・ 市の産業振興策「人のインバウンド」と「物のアウトバウンド」の相乗効果を狙い、米輸出を通じて市のPRと生産者の所得向上を目指す

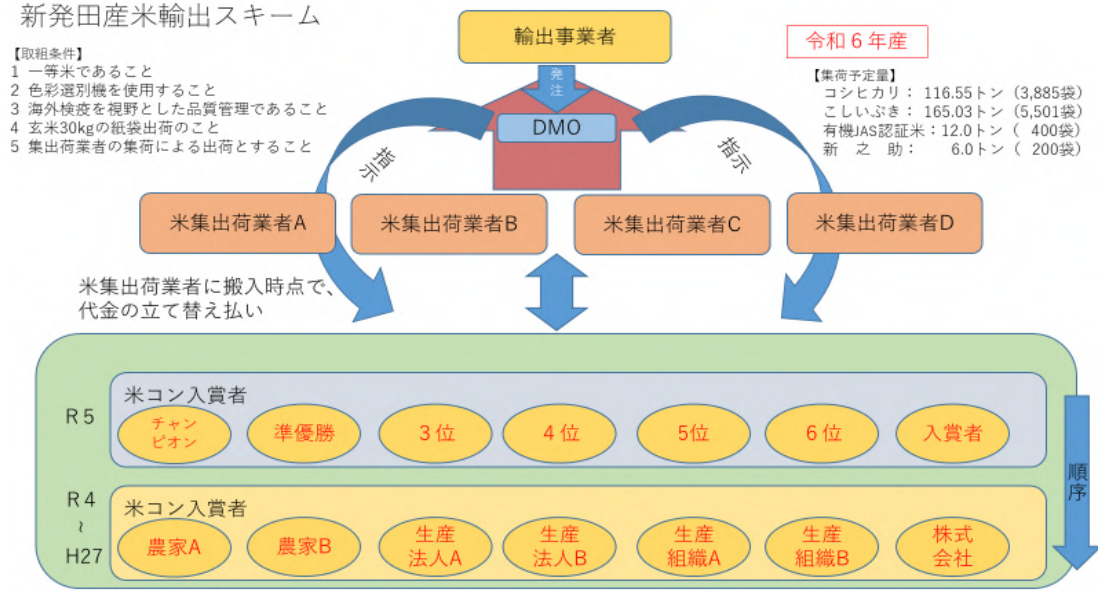
【米の輸出量】

年	輸出量	輸出先
R4年産	306 t	台湾、香港、シンガポール、 ハワイ、ニューヨーク、ベトナム、 ロサンゼルス (R7.1月現在：7都市)
R5年産	315 t	
R6年産	301 t	

新発田産米輸出スキーム

【取組条件】

- 1 一等米であること
- 2 色彩選別機を使用すること
- 3 海外検査を視野とした品質管理であること
- 4 玄米30kgの紙袋出荷のこと
- 5 集出荷業者の集荷による出荷とすること





オーガニック SHIBATAプロジェクト



プロジェクトの立ち上げ

令和4年度～



ORGANIC
SHIBATA
PROJECT

農業を取り巻く情勢と課題

生産者
の高齢化

米価の下落

海外市場
の開拓

SDGs
の推進

耕作放棄地
の増加

担い手不足

当市の動きと
時同じく・・・

有機米需要
の高まり

- 令和3年5月「みどりの食料システム戦略」が示される。
- 令和4年5月「みどりの食料システム法」公布。同年7月施行。
環境負荷低減に向けた取組を推進。
2050年までに耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大。



国の動きが追い風に
新発田版有機農業モデルの構築へ

⇒「オーガニックSHIBATAプロジェクト」立ち上げ

新発田版有機農業

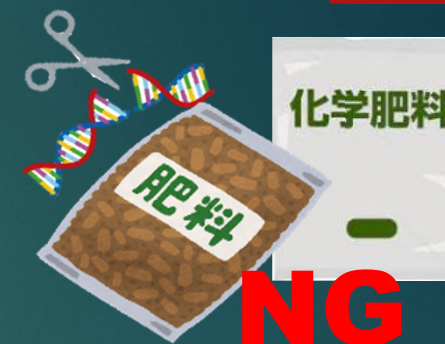


ORGANIC
SHIBATA
PROJECT

新発田版有機農業モデルの構築

「有機農業」とは・・・？

化学肥料・農薬を使用しないこと、遺伝子組み換え技術を利用しないことを基本として、環境への負荷をできる限り抑えた生産方法を用いる農業



⇒当市は、海外でもオーガニックと認められる

有機JAS米にこだわりを持って取り組んでいます！

【新発田版有機農業モデル】

「中山間地域」

～課題・懸念～

＝ 人口減少、高齢化、離農、農地の荒廃

『農薬飛散などの影響を受けにくい』

⇒**有機農業には好立地条件！**

- ・ 輸出事業で確立した明確な出口（販路）の確保
- ・ 中山間地域の特色を活かした農業
- ・ スマート農業を駆使した生産性の向上と高付加価値化
- ・ 地域おこし協力隊を活用した新たな担い手の確保
- ・ 産学官の連携

プロジェクトの概要



ORGANIC
SHIBATA
PROJECT

プロジェクト 3つの柱

有機米の産地形成

- ・ 海外需要の高いオーガニック米の産地づくり
- ・ 大学と連携したスマート農業
- ・ 有機 J A S 認証に対応した堆肥の製造

需要拡大

原材料
の共有

食の循環によるまちづくりの具現化

海外販路拡大による 輸出の促進

- ・ 米、新発田牛、日本酒等の販売促進
- ・ 海外プロモーション
- ・ トップセールスなど海外での営業活動

付加価値の高い 特産品・加工品づくり

- ・ オーガニック素材の加工食品づくり
- ・ 既存商品のリブランディング
- ・ 低糖質の加工品・菓子づくり

ORGANIC
SHIBATA

販売

プロジェクトの将来像



ORGANIC
SHIBATA
PROJECT

～今後の事業展開について～



農業・商工業・観光の各分野を結び付け、
海外や国内にPRし、波及効果につなげます